

鹿屋市議会議長
花牟礼 薫 様

班代表者 伊野 幸二

議会報告会実施結果報告書

開催日時	令和 7 年 10 月 30 日 木曜日 19 時 00 分～20 時 30 分					
開催場所	西原地区学習センター					
出席議員	班代表者	伊野	報告者	泊	記録者	米永・東
	伊野 幸二		泊 義秋		梶原 正憲	
	今村 光春		東 秀哉		米永 あつ子	
	時吉 茂治		川崎 勝			
参加人数	26 人 (議員 8 名・事務局 4 名を含む)					
議会報告 の概要	1 開会挨拶・出席議員紹介 2 議会報告 (議会の仕組み、審査報告、委員会活動報告) 3 意見交換 テーマ「地域経済の活性化について」 4 閉会挨拶					
主な意見 ・要望	○地域経済の活性化について ・物価高騰や燃油高騰、最低賃金見直し等の影響により、地域の零細企業・中小企業の経営は非常に厳しい状況にある。令和 4・5 年度に実施された「鹿屋市新商品開発等設備導入支援事業補助金」はコロナ禍で厳しい状況の中、非常にいい制度だったので、復活・継続してほしい。 ・商工業の起業者や事業承継者に対して、生活基盤を補助する仕組みを他市の状況も参考にして、導入してほしい。 ・地域商店街の消費喚起事業として、プレミアム商品券事業を実施してほしい。 ・地域活性化をずっと言っているが、都心部に人も予算も集中している。地方交付税が減らされているから、国に対して、地方交付税を上げるよう要望してほしい。 ・本町のシャッター通り対策を早急に講じる必要がある。あのシャッター通りが街の活性化の目安だと思うので、国と地方は対等だが、国への陳情を重ねてほしい。 ・防衛施設局発注の工事について、今後 10 年間で 500 億から 700 億円規模の投資が鹿屋航空基地で行われると聞いている。議会からも、市役所並びに防衛					

<p>主な意見 ・要望</p>	<p>施設局に対して、地元業者を最優先で使ってもらようよう、要望をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼネコンから受けて鹿屋の土建業に仕事をもらえる流れかと思われるが、その途中の経緯は透明化できないか。私は派遣で土建業をしていたことがあるが、三次、四次下請けでほんのわずかだった。一番下請けの金額を決めてから、上を決めることはできないか。 ・「第3次鹿屋市総合計画」、「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン」、「鹿屋市人材育成ビジョン」について、市民のほとんどが知らないのではないかと。どのようにして市民に周知していくのか、お聞きしたい。 ・会社経営をしているが、人材不足はどこ企業にもあると思う。市民や海外実習生を採用するなどもあるが、企業の人手不足対策はどうするのか。明るく豊かな社会づくりのために知恵を絞ってほしい。 ・人手不足の背景には東京など大都市圏への一極集中があり、その陰で農業が大企業優先の政策のもと、切り捨てられているように見えることを懸念している。地方にとって農業は重要な基幹産業であることから、農業が主産業の市町村同士で連携し、政府に対して農業を守る政策を強く求めてほしい。 ・細山田の工業団地の進捗状況が見えにくい。早期の具体化に向け、議会としての後押しを求めたい。 ・地域再生計画の中で、5つの事業を実施する政策が打ち立てられており、令和7年4月1日から10年間実施するとのことである。本年度も残り少ない中で、どのような手応えがあるか、体感を教えてほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者の受入れについて、ヨーロッパ諸国の移民問題や国内の技能実習制度の事例から、言語・文化の違いなど多面的な課題があると感じている。外国人個人を否定するものではないが、制度や支援体制が不十分なまま受入れを拡大すると、地域社会に負担や混乱が生じる恐れがある。日本語の習得支援や地域のルール・マナーの周知、学校現場や地域行事での対応など、具体的な支援と調整を前提とした制度設計とし、地域や市民に過度に負担が偏らないよう慎重に検討すべきである。 ・議員と語る会の開催が年1回、1時間30分のみでは不十分である。回数を増やすことで政治をより身近に感じられると思う。議員全員が揃わなくても報告会を継続的に行うことで議会の透明性が高まり、「政治が自分たちと別のところで進んでいる」という感覚も薄れると思う。議員には「市民とともにいる」という姿勢で、市民との対話を一層重視してほしい。
---------------------	---